



あたらしく、知多らしく。

梅香る わたしたちの緑園都市

令和6年5月17日(金)
知多市報道発表資料

秘書広報課

担当：広報チーム 古田

(0562-36-2642)

アオノリュウゼツランが開花間近

市役所南側の緑地に植えられたアオノリュウゼツランの株から、5月15日ごろより目立って花茎が伸び出しました。植えられてから17年ほど経っており、6～7月には開花すると思われます。

1 リュウゼツランとは

リュウゼツランとは、リュウゼツラン亜科・リュウゼツラン属に分類される植物の総称。100種類以上が知られている。先のとがった多肉質の葉を放射上に広げる姿が、竜の舌を思わせることから名付けられた。また、生育がゆっくりで、花を咲かせるまでに数十年かかることから、「センチュリープランツ（世紀の植物）」とも呼ばれる。

メキシコを中心に中～南アメリカの熱帯地域に自生。食用・繊維作物、観葉植物としても広く栽培されている。茎は太く短いため、地面から直接葉が生えているように見える。

葉の間から木の幹ほどの太さがある花茎（マスト）を伸ばし、先端にたくさんの筒状の花（白や黄色）をつける。花は先端の数個だけが結実し、その後株は枯れてしまう。種子による繁殖以外にも、茎の根元から新しい株が密生するなどして増殖する。

原産地である熱帯地域では、10年から20年にわたって成長し、その後開花する。日本では、30年から50年で開花する。開花年齢は決まったものではなく、生育地の気候、栄養状態などに左右され、個体差がある。

開花期になると、下の葉が枯れ始め、花茎は急成長する。1日に10cmほど成長し、2か月ほどで大きいものだと10mにもなり、開花する。

2 市役所にあるアオノリュウゼツラン

平成18年ごろ、知多市にある出光興産（株）愛知製油所（昭和50年操業開始）の敷地内でアオノリュウゼツランが開花した。これまでに敷地内で開花したことはなく、非常に珍しいとのことだった。詳細は残っていないが、そこから出た株が市に鉢植えで寄贈され、それを市役所南側の緑地に植えたものと思われる。寄贈を受けたのが平成19年だったとすれば、17年ほど経っていることとなる。

5月16日時点のアオノリュウゼツラン ▶

